

市民らがんや 緩和ケア学ぶ

製鉄記念室蘭病院でセミナー

製鉄記念室蘭病院の市民公開講座・第25回がんセミナーが24日、同院1階ラウンジで開かれ「緩和ケアってなあに？」と題し、同院の専門外来・緩和ケア外来の診察を担当する洞爺温泉病院の中谷玲二院長ががんや緩和ケアについて伝えた。

「がんは男性は胃、肺、大腸が多く、女性は乳房、胃、大腸が多くなっている。国の推計では2人に1人が生涯のうちにかんにかかると言われているが、がんは治せる時代。以前は死をイメージする恐ろしい病気だったが、現在は早期発見により治る可能性が高い。早期にかんが発見された人の5年後の生存率は高くなっている」などと呼び掛けた。

緩和ケアについては「がん患者はがん自体の症状のほかに、痛み、倦怠感などのさまざまな身体的な症状や、落ち込み、悲しみなどの精神的な苦痛を経験する。緩和ケアはがんと診断されたときから行う、身体的、精神的な苦痛を和らげるためのケア。痛みやつらい症状の軽減、心のケア、日常生活のサポート、家族のケア、『あなたらしさ』を大切にします」と説明した上で「外来、入院、在宅など希望に合わせてさまざまな場所で受けられる」などと紹介した。聴講した30人余りは熱心に耳を傾けていた。

(成田真梨子)



がんや緩和ケアについて伝えられた製鉄記念室蘭病院のがんセミナー